

災害

Disaster

その時、守るためにできること

日本の四季を感じるひとつに、梅雨があります。6月と7月の降水量は、年間降水量の40%を占め、雨量が最も多い時期です。梅雨の後には台風が訪れます。大雨による河川の増水、土砂崩れ、暴風による停電など大きな被害が発生します。災害が起きるその時、守るためにできることがあります。



単位：mm

「災害はいつ来るのか分からない」

例えば、大雨のニュースがテレビで流れていたとしても、それが必ず災害につながるわけではありません。

けれど自分の判断だけで「大丈夫だろう」と油断していると、災害が起きたときには逃げ遅れてしまいます。河川が氾濫して堤防が決壊したり、土砂崩れが起きて家が土砂で埋もれてしまふなどの災害が起きたときに行動しては遅いのです。では、災害から身を守るために、私たちがしなければならないことはなんのでしょうか。

何が起きているのか、まずは知ってください

「警報」と「注意報」。この2つの言葉の違いを知っていますか？

「警報」とは、重大な災害が起こる恐れのあることを警告して行う予報です。警報に対して、「注意報」は災害が起こる恐れのあることを注意して行う予報です。今すぐ災害が起きることはないけれど今後の動きに気をつけてくださいという注意を促すのが「注意報」で、災害が起きる可能性があるので警戒するよう警告するのが「警報」です。

あなたが、守るためにできること

今すぐ実践できる防災対策があります。普段の生活から防災を心がけていれば、「いざ」というときに助かるかもしれません。また、災害が起きてからの行動一つで、あなたの生死が分かれるかもしれないのです。

普段から心がけること

避難場所・避難路を確認しましょう

自分の地区の避難場所がどこなのか確認しておきましょう。また、避難場所までの経路(避難路)は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

家のまわりを点検・整備しましょう

家のまわりに吹き飛ばされそうな物はないか確認しましょう。また、家の周囲の排水溝が詰まっていないかなどの確認も必要です。

災害が起きる前、起きたときに心がけること

正確な情報収集と自主的避難

テレビ・ラジオで最新の気象情報、災害情報、避難情報を確認しましょう。雨の降り方や家周辺の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



避難をする前には必ず確認しましょう

避難をする前に、電気・ガスなどの火元を消しましょう。また、避難場所を確認し、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



車での避難は控えてください

車での避難は緊急車両の通行を妨げたり、交通渋滞を招き、浸水や道路への落石があると動けなくなります。特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。また、水防活動の妨げになるので、車を道路や堤防に放置しないようにしてください。

高い道路を通りましょう

避難をするときは、できるだけ高い道路を選びましょう。浸水箇所があった場合には、溝や水路に十分注意しましょう。また、崖などがある場合は、土砂崩れが起きる可能性もありますので注意してください。



忘れずに準備しておきましょう

非常食や持ち出すものを事前に準備しておきましょう。非常食には、調理の手間がかからず、水もあまり使用しないもの(レトルト食品や缶詰など)を選びましょう。また、懐中電灯やラジオ、乾電池も忘れずに用意しておきましょう。

わが家の非常時持ち出しチェックリスト

- 貴重品類
 - 現金
 - 預金通帳
 - 印かん
 - 保険証
- 衣類
 - 下着類
 - 防寒具
 - 雨ガッパ
- 非常食糧
 - 乾パン
 - 缶詰
 - ミネラルウォーター
 - 組食器、缶切りなど
- 避難用具
 - 携帯ラジオ
 - 懐中電灯
 - 予備電池
 - ヘルメット
 - 防災ずきん
- 救急用具
 - 消毒液
 - きず薬
 - 湿布薬
 - 包帯
 - 絆創膏
 - 常備薬
- 生活用品
 - 万能ナイフ
 - マッチ、ライター
 - すべり止め付軍手
 - ビニールシート
 - ひも、ガムテープ
 - ティッシュ
 - 裁縫道具
 - 洗面用具、タオル
- その他
 - 赤ちゃん用品
 - 介護用品



お年寄りの避難などに協力をお願いします

お年寄りや子ども、病気の人などは早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。特に一人暮らしのお年寄りや病気の人たちには、普段からの気配りが必要です。



動きやすい服装、2人以上での避難

動きやすい格好で避難しましょう。また、必ず2人以上での避難を心がけましょう。避難勧告などは、危険が迫ったときに出されますので、速やかに避難しましょう。避難するときは、警察などの指示に従いましょう。



雨の強さと降り方

1時間雨量	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10以上 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声がよく聞き取れない	地面一面に水たまりができる	—	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要
20以上 30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようになる	ワイパーを速くしても見づらい	側溝や下水、小さな川が溢れ、小規模の崖崩れが始まる
30以上 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘はまったく役に立たなくなる			ハイドロプレーニング現象が発生する(※1)	・山崩れ、崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要 ・都市では下水管から雨水が溢れる
50以上 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)			水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	・都市部では、地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある ・マンホールから水が噴出する ・土石流が起こりやすい ・多くの災害が発生する
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる					雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

※1 高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる現象のこと。
 ※2 表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質などの違いによって被害の様子は異なることがあります。この表ではある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
 ※3 この表は主に近年発生した被害の事例から作成したものです。今後新しい事例が得られたり、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。